

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2272100161		
法人名	有限会社ハートフルケア		
事業所名	グループホームゆずの家1号館(1号館、2号館 合同) ※実施回数緩和適用事業所		
所在地	富士宮市大岩143-13		
自己評価作成日	平成24年6月26日	評価結果市町村受理日	平成24年8月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2272100161&SC](http://aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2272100161&SC)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年7月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

- ・利用者様と相互の関係づくりを管理者、職員一同念頭におき、日々仕事をさせて頂いています。
- ・職員教育として、外部の研修参加はもちろん、施設内研修や施設内新人研修を行い職員のスキルアップにつなげている。
- ・職員が毎日作る食事は美味しいだけではなく、主采、副采等栄養のバランスがとられており利用者様の健康と生きる力につながっています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は富士丘陵の見晴しのよい住宅地に立地しています。玄関先には鉢植えの植物が飾られ、訪問すると職員が元氣よく挨拶してくれます。事業所では2ユニット合同での行事も多く行われ、中でも近年は施設内研修の充実を図っています。例えば代表が指導者養成研修やパーソナルの内容を身につけ、認知症対応を中心とした職場内研修に取り組んでいます。また新たにリーダーを養成していることから職員の高めていこうという意欲が窺えました。さらに事故対策などの委員会を設けることで、課題を検討する能力が高まり、利用者の健康維持など積極的な発言が多く見られるようになってきています。一つひとつの取組からは着実に認知症対応型施設としての備えを進めていることが受けとめられました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホームゆずの家1号館(1号館、2号館 合同)	施設内に運営理念と運営方針をあげている。施設内研修、新人研修、職員会議等理念の理解、啓発に努めている。地域密着型の役割を理解したうえで、入居者様が住み慣れた地域で安心した生活が送れるよう支援しています。	「自分らしくゆったりと安心して」という理念を掲げています。利用者と同調したり傾聴する姿勢が常日頃から見られる事からも、職員による理念の理解は進んでいることが分かります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りには近所の方も参加して頂いている。地区のお祭りや三世代交流のイベント等招待して頂いている。又地域の中学生や高校生の体験実習の受け入れも行っている。日常的に近隣への散歩へ出掛けている為顔なじみのご近所様も多くいる。	夏祭りの開催には、道路からも見やすく工夫したり利用者と一緒にポスティングすることで、近所から30名余の参加がありました。毎年中学校で開催している三世代交流イベントへの参加も継続しています。また地域の清掃活動などにも参加しています。	今後は認知症サポーター養成講座の開催が予定されており、より地域に根差した事業所との認識が進んだり、未就学の児童など幅広い交流が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの資格を持っている職員がいる為認知症の理解や「私の手帳」の使い方など寄り合い処へ行き説明する等のお手伝いや中学校へ行き認知症養成講座をひらいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービスの実際や評価への取り組み状況について報告してきた。ご家族、行政職員、民生委員さんからの意見、助言を頂き、その情報を職員会議にて職員間で共有し、サービスの向上にも活かした	地域の代表として、民生委員以外に近所の人も参加しています。会議の内容は詳細に記録されていて、欠席した委員にも議事録を送付しています。運営推進会議では活発な発言がおこなわれ「3時間の会議もあつという間」というほどです。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政、包括とは運営推進会議で情報交換を行っている。又介護事業者連絡会を通して連携をとり、協力関係を築ける様に努めている。	運営推進会議には市職員から提案がおこなわれることもあり、活発な交流がおこなわれています。事業の実績に一定の評価が得られ、市からの依頼や相談もあります。委員や講師の依頼も引き受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は外部研修はもちろん、施設内研修に積極的に参加し、どのような事が身体拘束になるのかを学んでいる、職員会議でもリスクマネジメントにフィードバックさせゆずの家の考え方を職員間で共有し身体拘束をしないケアに努めている。拘束ゼロ宣言もしている。	パーソンフッド(相互の存在を認めるケア)に取り組み、委員会を設けることにより職員が自ら改善する機会が増えています。取り組み前に比べて利用者の理解が進み、コミュニケーションが円滑になることで利用者にもルールを示すことが減ります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症介護の基本を学んでもらい、常日頃から利用者さまとの相互の関係作りを徹するように管理者は呼びかけている。身体的な虐待だけでなく、言葉による精神的な苦痛も虐待である事をパーソンフット委員会で話し合い職員会議で委員が投げ掛け、防止策に努めている。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度の研修は代表、管理者が受講して、自施設での研修で職員に学ぶ機会を作っている。成年後見制度については、現入居者に対する制度の必要性の有無を包括、行政と話しあっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書を口頭で補足しながら説明している。説明ご疑問点はないか確認し、後に「解らない事があれば、いつでも気軽に後質問下さい」とお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族代表の意見要望を伺い、面会時にコミュニケーションを保ち話しやすい雰囲気づくりに努めている。要望意見は謙虚に受け止め運営に反映していく姿勢でいる。利用者様に関しては担当職員が個別で聞いた事を申し送り等で日々共有し反映するように努めている。	面会時や、モニタリングなど個々で会う機会を大切にし、家族からの意見を反映できるようにしています。運営推進会議には家族代表の参加が定着しています。また、「職員の名前と写真を掲示してほしい」など家族からの要望には、速やかに対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、職員の意見を聞く機会を設けている。職員からでた意見や提案は管理会議でけんとうして、反映するように努めている。	申し送りノートを活用することで、個々の意見を把握したり反映することができています。3ヶ月に1回「茶話会」を設けて、職員同士で時に食事しながら気軽に意見交換する機会を設けています。その中で運営に関する意見など、現場での課題が提案されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は働きやすい環境作りや給料アップ、資格取得支援、福利厚生に努めている。管理者は職員に自己評価をしてもらい、個人面談を開き職員の話しや意見を聞き、あらためて管理会議で検討し、反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や経験に応じて、管理者は研修の内容を決め、職員が勤務内で研修が受けられる様支援している、また代表や委員会の職員が講師になり施設内の研修を開いている。働きながら専門職の資格が取れる様、研修費や受験料など支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士宮のGH部会で他施設交換実習を計画し、学ぶ機会を作った。実践報告会や新人研修などで互いにサービスの質の向上をめざす努力をしている。職員も合同行事や交流かいに多く参加している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人の困っている事、不安な事等聞き取りを行い、職員間で共有し、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事、不安な事、求めていることなど入所時に聞き取りを行い、受け止めるように努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けて時に管理者が利用者にとってグループホームでの生活が適切か緊急を要するのか、他施設への支援が適切か見極める様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式の活用、パーソンセンタードケアの促進にて利用者様と相互の関係を築き寄り添うケアに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一年をとして、お花見、温泉旅行、秋祭り、運動会米寿のお祝い等ご家族も参加して頂き一緒に楽しんでいます。2ヶ月に1回ゆず新聞を出し利用者様の近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会ができ、友人、親戚の方、元暮らしていた家の近隣の方など訪ねて来てくれます。お墓参りなど本人行きたい場所へ行き馴染みの場所との関係が途切れない様に努めている。	職員が手伝うことで利用者は年賀状を出したり、手紙や電話のやり取りが続けられます。畑作業を継続したいという利用者のために敷地内に畑を開墾し、現在はキュウリやトマトが立派に育っていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性を一人一人職員は理解し、共同作業の支援やゆずコーラス、団樂の時間をもてる様に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅になった場合は退所後も相談をうけたり情報提供をしたりしている。退所後ご家族が野菜の提供をして下さったり、ボランティアとして利用者様のお話相手になって下さったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の望みや意向は日々の情報提供を共有する事でその人らしい生活、生き方を優先出来る様努めている。意思疎通が出来ない方も表情や言葉の表現から心を読みとり支援につなげている。	利用者ひとりずつに担当職員を設け、傾聴を大切にすることで気持ちを汲み取ることができるようになっています。利用者からの希望や状態は記録に残して共有し、家族宛てに手書きのコメントを送付しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や家族状況など本人に関する情報は入居時や面会時に家族や本人に確認したり、日常的な会話の中から拾いあげたりして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランの作成時立てた目標、サービスプランを日々の経過記録として活用し、変化のあった事に関しては、申し送りノートに記録し、全員が目を通すようにサインをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画は毎月の職員会議の時にカンファレンスを行い職員全員で話しあっている。家族の協力や承諾は面会時プランを読み、伝える事で意思の確認やホーム側の意向を伝えて計画に反映している。	利用者の担当がアセスメントをおこない、計画作成担当が計画を作成しています。モニタリングは担当がおこない、ケアカンファレンスで全体での話し合いをおこなっています。支援経過記録の書式に短期目標とサービス内容を記載することで、どの職員でも介護計画が理解しやすくなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況を個別に記録している。重要な変更事項や状態の変化は申し送りノートで伝え、素早く情報が共有できるようにし、職員が交代しても適切なケアが継続して行えるよう工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人的な買い物の同行や病院受診支援、外食サービス、認定更新の代行申請、入院退院際の移送サービスなど無料で提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練は管轄の消防署の隊員や近隣住民の協力の下行った。ゆずの家のお祭りも民生委員の方や近隣の方の参加をえている。日頃から徘徊者の保護の協力は近隣の住民の方お店の方をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の病状や家族の希望、本人の希望を考慮しながら、かかりつけ医を決めている。特に本人、ご家族の希望がない時は協力医療機関と連携し、月2回の訪問診療を受診し、緊急時も主治医の指示のもと速やかな対応をこころがけている。	2週間に1回、協力医による往診があます。協力医以外にも、専門医やかかりつけ医への受診を継続でき、その際には家族が同行しています。その際には尿量など、生活の様子が持参できるようになっています。また急変時に備えて、救急隊への報告が必要かつ簡潔にできるように書面が準備されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームでは代表が看護師で非常勤の看護師もいる為、日常の健康管理や職員の医療的な支援の指導を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	可能な限り早期退院できるように医療関係者に情報提供し、家族と相談しながら、最良の方法を選択している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	長期的な食事摂取量の低下や誤嚥性の肺炎などを繰り返すケース、癌の末期、老衰など本人、家族と主治医、管理者、ホームの看護師で週末期のありかたについて、話し合い、全員で方針を共有している。	代表をはじめ4名の看護師資格所持者が勤務しているため、一定の医療支援が必要になっても事業所内で生活が続けられます。終末期には家族と一緒に過ごす時間を大切に、職員は看取りを支援することで経験になっています。そういった運営が反映されて、すでに5人の看取りをおこなった実績があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年消防署の協力により通報訓練、消火器の使い方、非難訓練をしている。三角巾を使用した応急手当は、施設の看護師が指導を行っている窒息時の対応についても看護師が指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震災害時の訓練は毎年9月に行っている。炊き出し訓練、応急処置の訓練も行っている。倉庫に飲料水や食料の備蓄をしている。火災訓練も11月に夜間の火災を想定し行い、近隣の住民の協力得て行った。	消防署の協力のもと、毎年9月と12月に避難訓練を開催しています。スプリンクラーを設置したため、去年は実際に発煙した中での通報や避難の訓練をおこないました。運営推進会議を通じて、災害時には地域の中の防災拠点として期待されています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊重、誇りについてはパーソンフット委員会話し合い職員間で共有している。個人情報については薬袋やメモ書きに至るまで破棄する時にはシュレッダーにかけ、入居者の情報が漏洩しないように注意しています。又職員が外部個人情報を漏らさないよう覚え書きに書名をもらっている。	パーソンフットを推進する委員会を設けていて、委員を中心とした話し合いでは個人を尊重する機会になっています。例えば「帰宅願望の強い利用者に対してその場限りで対処していた事例」は、話し合いの成果によって「傾聴の大切さ」や「個人の理解」へとすすみ、職員がじっくりと寄り添うことができるようになったそうです。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が日常生活において自己決定しやすい様に声かけをしたり、支援をしている。外出、外食、買い物等要望に耳を傾けただけ実行出来る様努力し、訴えを言えない利用者様についてもその方と寄り添う事によって心を汲み取り、自己決定出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースでゆっくりとした生活をさせて頂いている、無理強いせず、行動に対しては見守りと寄り添い、発言にたいしては傾聴し個別の希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時にはお化粧をし、おしゃれをして出掛けます職員美容師がパーマやカット、毛染めを無料で提供し大変喜ばれています。男性の利用者様も髭そりを毎日行い身だしなみも整えられています。行き着けの店に行きたいと言う希望も支援するようにしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は一緒に行う様にこころがけ、皆で楽しく、美味しく食べている。イベントで花見やお庭でのバイキング、外食など食べることに楽しみに、重点をおいている。後かたづけも一緒におこなっている	食前の準備、片付けは利用者も一緒になって楽しくおこなっています。栄養士による栄養指導も参考にして、管理者が食事の内容を把握しています。食器は小鉢を多様して、食材を活かしたきめ細かい心遣いが感じられました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、主菜、副菜のバランスを考え利用者様の嗜好も取り入れた食事が提供出来る様努力しています。食事量や形態は個々の状況に合わせて、提供しています。水分も入浴後、外出後など補給する様促し、水分制限の有る利用者様も計量しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを支援している。義歯の洗浄やポリドントの使用も職員介助で行っている。口内炎や歯肉炎がないかも時々チェックしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化してきているなかで、できる限り気持ち良くトイレで排泄出来る様に時間で誘導している。時々失禁あるも個々の排泄パターンを把握する事でトイレへの誘導を行っている。	気持ちの良い排泄をと、心掛けています。定期的な排泄誘導により、紙パンツを使用していた利用者が布パンツに改善された例もあります。また、パンツ内の汚物の付着状態や、ごみ箱に処理できたかどうか確認し、記録できています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックし、便秘傾向の方には下剤の調整や浣腸を看護師の指導のもと行っている。食事でも繊維質の多い野菜の摂取や牛乳やヨーグルトも提供しています。運動不足にならない様お散歩も心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日入れる環境になっています、入る順番は毎日違い、入浴拒否の方も無理強いせずタイミングをみて声かけています。入る時間でもできる限り本人の希望を聞く様に心がけている。ただし全介助を必要としている利用者様は午前中にベテランの職員が安全に入浴介助している。	毎日湯を沸かして、好きな曜日に入浴できます。足ふきマットやタオルを利用者ごとに交換して、清潔を保っています。温泉の素を使ったり、化粧水、クリームなども活用した「女性的な楽しみ」があることも特徴のひとつです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣に合わせて、就寝時間を決めず、眠くなったら入床して頂いています。お昼寝も自由で、気持ちが穏やかに安心するよう支援し夜間は照明等にも配慮します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はいつでも確認できるよう個別にファイルしてあります。医師の指示通り服薬できるように看護師指示のもと介護職員が行っている。降圧剤や抗生剤の薬が病状に応じて薬の調整が必要な時は医師の指示のもと調整します		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のお掃除、洗濯物干し、畳み等の役割があり張り合いをもって生活されている。畑仕事を長年されてきた利用者様の為に畑を作り種まきから、収穫までの作業をして頂き喜びと生きがいのある生活を送って頂いている。家族参加の外出やイベントも計画し、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や能力に応じて、買い物、ドライブへ行く支援をしている。ご家族の協力でお墓参りや、地区のお祭り参加も近隣の住民のかたの協力が出掛けられる様支援している。	年間行事には、車いすの利用者も含めて出来るだけ全員で参加するようにしています。地域のどんど焼きや他施設と合同のいちご狩りなどにも参加しています。外出が困難な利用者のために、近隣住民が訪れ虫を觀賞させてくれたりします。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理でお財布を持っている方は現在いらっしゃいません。買い物へ行く時は職員同行し、支払いが職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その方の能力に応じてご家族の思いを聞き電話をする事を希望される方には支援している。手紙のやり取りも奥様が入居されている方とご主人との間で面会時行われている。年賀状も毎年能力に応じて出せるようにハガキを準備している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や階段には夜電気をおとしても、人を感じて点灯する照明器具を使用している。リビング、食堂には季節の花や観葉植物などを飾り、リラックスできる空間を作っている。外出時やイベント時に撮った写真をリビングに掲示し、利用者様ご家族様がいつでも見られる様にしている。	玄関にはちょうど七夕の飾り付けが行われ、季節が感じられました。共用空間は吹き抜けが開放的で、電熱球による照明のため刺激が少なく感じられます。また階段は段差が低いので、多くの利用者が昇降できます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では利用者同士の間関係に配慮した居場所の提供を職員が仲介しながら支援しているテレビを観たり、職員のお手伝いをしたり、新聞を読んだり、談話されたり思い思いの時間が過ごせる様に心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた古いタンスや鏡台を持ってきて頂いたり、アルバムを持参したり、直筆の掛け軸や染物等、本人が安心して居心地の良い工夫をしている。又テレビを自室におかれ、好きな番組を夜寝る前まで楽しませている利用者様もいる。	整理整頓を職員が手伝っていることもあり、どの居室も整然と片付いています。居室内にはタンスや鏡台などの家具が多く持ち込まれ、また趣味のものやアルバムもみられ、利用者ごとに趣きのある空間となっている様子が確認できました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋がわかる様に各部屋に名前を貼っている。掃除道具、畑仕事用の道具、も一箇所に置き場所を決め、自分で出せるようにしている。下駄箱も名前を貼り自分で出せるようにしている。トイレは大きな字で便所と表示してある		